

2023 年度
学校関係者評価報告書

姫路情報システム専門学校
学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価について

(1) 概要

2024年6月14日に2023年度学校自己評価報告書をもとに、学校関係者評価を実施したため、本書にて報告する。

(2) 学校関係者評価委員会

以下のメンバーにて構成。

所属 役職名	氏名
矢野商事株式会社 代表取締役 社長	塩木 健太
アイデックスデザイン株式会社 室長	高田 百合
アイデックスデザイン株式会社 代表取締役	高原 秀樹
マルイチ株式会社 設計部	中村 泰輔
矢野商事株式会社 営業	古川 洋一
マルイチ株式会社 執行役員 設計部長	細尾 哲也

※氏名 50音順にて記載

2. 評価領域ごとの学校関係者評価・意見

(1) 教育理念・目的・育成人材像

- ・学生の社会的資質や行動力を高めるための環境作りが求められる。
- ・教育目標、教育理念は明確に定められている。しかし、それが外部にはあまり馴染んでいない。より外部への浸透を図るため、広告の打ち出し方や広報の在り方も再検討する必要があるかもしれない。
- ・当初定めた学校の理念や教育の在り方に固執せず、定期的に再考し、常にアップデートしていく必要がある。
- ・昔の学園祭は地域の人々に来てもらうことで、地域の人にも活力を与えていた。学生だけでなく、地域の人々の為にできることをみつけることで、より姫路の役に立てるのではないか。

(2) 学校運営

- ・新たにコミュニケーションアプリを導入するなど、先生同士、また、先生学生間での業務の効率化に努めている。
- ・社会的に生成AIなどが話題になる中で、時代に対応できる教育環境の更新がもためられている。カリキュラムにそのような潮流を反映させ、時代の流れに対応できるような人材を育成できる環境を整備するなど、不断の努力を惜しまないでほしい。
- ・今年度より理事が変更となり、校内体制も刷新したと伺った。これまで続けてきた歴史を

大事にしつつ、より発展していける道を模索してほしい。

- ・以前行っていた四年制のカリキュラムは、大学で学ぶような学術的なことと、資格取得や技術取得など大学では学べない専門学校ならではのカリキュラムが融合しており、特徴的なものだったと感じる。そのような特色のあるコースを新設するのはどうか。

(3) 教育活動

- ・現状の業界ニーズだけでなく、中長期的な業界の動きを見据えて育成人材像を形成し、その目標に向けたカリキュラムを構築していく必要がある。

- ・学生の成績評価基準は適切であり十分機能している。

- ・卒業生への情報発信やキャリアサポート、卒業生同士の情報交換会など、卒業生への支援を拡充してみてはどうか。

- ・地元の中小企業としては、歴史ある専門学校に求人票を持っていくというのは相当ハードルが高いという声がある。また、それらの企業は専門学校の就活の流れなどもわかっていない場合が多く、いつ求人票を持っていけばよいのか、いつ説明会をすればいいのかなど細かいところを知りたい場合が多い。企業向けページの拡充や、企業向けのオープンキャンパスなどを開催し、就職先企業の幅を広げてみるのはどうか。

(4) 学修成果

- ・退学者数を減らすため、学内研修等において具体的事例から事例研究等を行い、各教員の知識、経験を全体の知識、経験とすることで、教員全体、学校全体の学生指導力を向上させていく施策はどうか。

- ・コロナの影響でオンライン授業が増え、対面の授業が減ったと思われるが、自分が学生だった頃は設備環境や学習意欲の面からみても先生に直接教えてもらえる対面授業の方がよかった。その良さは是非なくさないでほしい。

- ・学生を採用する企業からすると、資格を複数個持っているというのは信頼が置けるし、期待ができる。資格を持っているという事実だけでなく、その資格を取るための努力ができる人材であるという証拠になっている。

- ・昨年、職場見学に本校の学生が10名ほど来たが、アンケートをぎっしりと書いていた。本校の学生は履歴書などもしっかりと書いており、教育が行き届いている様子が見て取れ、安心できる。

- ・CGクリエイターコースでは、CADの授業を受けることによって建築系などの職業も選べるようになっており、学習の幅の広さが就職の幅の広さに繋がっている。また、幅広いことを学ぶことで新しいものを吸収する力も上がっていると感じる。

- ・3DCADなど、まだ技術者は少ないが利用されている技術を授業で導入し、尖ったスキルを身に着けることで就職していく道も選べるようにしてはどうか。

- ・専門学校との対比として、職業訓練校が挙げられることもあるが、技術的なことを2年間

基本からきっちり学習する専門学校の卒業生の方が、新しい技術の飲み込みや応用の面で信頼が置ける。

・昨年、当社に就職した卒業生がいたが、電話応対や取引先での対応もしっかりとしている。私たちが思っている以上に、学生たちは学校での学びを活かして自立している。業種柄対面での対応は緊張する人が多いが、本校の卒業生はお客様に不安を与えることなくしっかりした対応ができています。

・学校で取得した知識は仕事の上でも活かしている。学生時代に学校を通じて就職先企業から課題や事前研修を受けたことも大きな要因だと感じる。企業と連携し、就職が決まったところまでではなく、卒業まで面倒を見てあげることは重要だと感じる。

(5) 学生支援

・成人年齢が18歳となったことにより、専門学校の学生は成人となった。親との連携も大切かもしれないが、就職を見据え、自立した成人としての自覚を持つことができるような教育を期待している。

・在校生だけでなく、卒業生への情報発信等、卒業生の支援等に努めてほしい。

・最近、Eスポーツのサークルが始まったと聞いた。授業だけでなく、課外活動でも学生生活を充実させる環境を整えることは重要である。他のサークルや部活なども学校として支援してみてもどうか。

・卒業生向けに放課後の学校施設を開放し、図書館のような場所として活用するのはどうか。卒業生同士の交流や元担任に相談する場として活用できることで、仕事上の悩みや問題の解決に繋がるかもしれない。また、スキルアップの観点からも、仕事上でつまづいている箇所を先生に教えてもらうことで、早期退職を防ぐ等、様々なメリットをもたらす可能性がある。地域に貢献する一種のリスキリング施設として、検討する価値があるのではないか。

・大学生と比べ、専門学校生は2年間学校生活が短い。アルバイトなど大人と関わる経験も大学生より少なくなってしまう。パソコンなどで集中する業務では大学生と専門学校生の差はないと思うが、対人スキルなどに関しては場数を踏むことが大切なので、大きな差がついてしまっていると感じる。インターンなどでそこを改善するのはどうか。

(6) 学校設備

・8年前に改築してから何度か訪問させていただいたことがあるが、未だに中は綺麗で、日ごろの清掃活動の賜物であると感じた。これからも継続してほしい。

・学校は有事の際に地域の人々の避難場所に指定されていることが多い。地域の人々の為に防災備蓄品を準備しておくことは地域住民の安心に繋がるのではないか。

・学校の周辺は外国の方が多く見受けられる。デジタルツールを活かして、そのような方の為のアクセススポットのようなものは作れないだろうか。

(7) 学生の受け入れ募集

- ・SNSを活用していく場合は、ただ流すだけでなく、それを分析し、効果的に流していく必要がある。
- ・姫路という土地柄、国際色が強く、インバウンドが多いことをブランディングに利用していくのはどうか。
- ・学生スタッフによるオープンキャンパスなど、学生主体の広報活動などを検討してみてもどうか。
- ・コースのメインの学習だけでなく、幅広い授業が受けられることで就職の幅も広がっていくということをもっとアピールした方がよいのではないか。

(8) 財務

- ・長年の蓄積もあり、中長期的に財務基盤は安定している。
- ・会計監査が適切に行われている。
- ・少子化より教育業界が先細っていく中で、既存の考え方に捕らわれず、10年後、20年後を見据えたビジョンを描くことが重要である。

(9) 法令等の遵守

- ・各種法令、専修学校専門課程の設置基準を遵守し適切な運営がなされている。
- ・昨今のニュースなどを見ていると、教員は個人情報の保護について疎いようなイメージがある。本校もどこに落とし穴があるかわからないので、個人情報の取り扱いには十分に注意してほしい。
- ・作業工程のチェックやマニュアル化を進めることで、業務の見える化を推進し、法令遵守や、コンプライアンス遵守をすすめてほしい。